

豊かな体験活動 & 子ども双方向交流

国の子ども農山漁村交流プロジェクト(豊かな体験活動)推進に歩調を合わせて、県は独自に、その逆ベクトルとなる本県児童の都市体験を推奨し支援しています。西明寺小学校(佐藤心一校長、児童数150名)は、そのモデル校として2年目です。(広報平成21年2月号で紹介)

7月27日から29日にかけて当校5年生22名が、文京区立本郷小学校を訪れ「食育」「キャリア教育」をテーマに交流を深めてきました。日本の食料生産を学ぶ社会科とからめての総合的な学習です。8月には、本郷小5年17名が本市を訪問し農業体験を行いました。それらの模様を本月号及び来月号の2号にわたってレポートします。

◇農産物流通経路追跡(7月28日)

西木町でとれた農産物は、どうやって本郷小の友達に届くのだろうか?その流通経路の追跡調査をしました。本郷小の友達は、40道府県・10か国の食物を食べていることが分かりました。秋田県もその中の一つです。



午前5時30分、眠い目をこすりながら貸切のジャンボタクシーで東京中央卸売市場へいざ出発!



市場規模日本一(花の流通は世界第2位)の大田市場は、電子投票による入札でした。

市場規模日本一(花の流通は世界第2位)の大田市場は、電子投票による入札でした。



仕入れたものが、いよいよ運ばれていきます。



いったいどこに?タクシーでいざ追跡!

大田市場の花は、本郷のフラワーショップへ、淀橋市場の野菜は都内スーパー3店に到着しました。明日は、ここでの販売体験です。



◇本郷小との交流(7月27日)

交流2年目といっても、子どもたちにとっては初対面です。緊張の面持ちでまずは名刺交換から。その後は、本郷小児童の案内で校内めぐりに駆け回りました。



都心の学校らしく、敷地の狭さは高さでカバー。地上5階建て(地下2階)校舎の最上階にプールを備え、開け放たれたドームからは都内のパノラマを楽しむことができました。

本郷小PTAの方々の先導で、本郷界隈の散策にも出かけました。文京(教?)の名にふさわしく、東京大学、湯島天神といった施設はもとより、石川啄木や樋口一葉のゆかりの地であることも分かりました。あいにくの雨で途中帰校しましたが、子どもたちは東京ドームの巨大さに驚嘆。富士山をも眺望できるシビックセンター(区役所)、その展望台からの景観に大興奮でした。



◇店頭販売体験(7月29日)

今回の目玉の一つがこの販売体験です。前日、ジャンボタクシーで淀橋市場から追跡し到着したのは、都内スーパーマーケット「丸正フーズ」の目白店、目黒大橋店、若松町店でした。



子どもたちは、西木ホワイトエンジェルの鈴木弘正社長さんからプレゼントしていただいた、おそろいのエプロンに身を包んで店頭に立ちました。売るのは、学校菜園や家庭菜園で穫れた野菜。自分たちが育てたきゅうり・ジャガイモ・ニンジン・とうもろこし・ミニトマト…集荷・パック詰め・宅配便による配送と、一連を子どもたちに体験させてくださったのは「むらっこ直送便」の佐藤厚子さんでした。

商品陳列台に自分の顔写真とメッセージを載せた生産者カード入りの商品パックが並びます。はじめは恥ずかしそうにしていたのが、売れるとおもしろくなります。完売間近には、残った数パックを手にお客さんに近寄り、「おいしいですよ」とキャッチセールス。見ているこちらが冷や汗をかくほどに子どもたちは変容していました。



一方、大田市場から追いかけて到着したのは、本郷小にほど近いフラワーショップ「フローリストKT」でした。

店先の清掃や開店準備。注文のお花の配達。電気店、高級日本料理店、クリーニング店、パン工房、日用品店…見ず知らずのところへ飛び込んでいく子どもたちには、日常では見られないたくまさが芽生えていました。

これらの体験活動を演出してくださった方々に感謝、多謝!